



薬剤部季刊誌

26号

2012年12月発行

# くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

発行責任者 小林 真弓

編集担当者 平野 浩司

矢古宇 由佳

小島 強

第26回目のテーマは“がん化学療法”についての紹介です。



## 化学療法とは

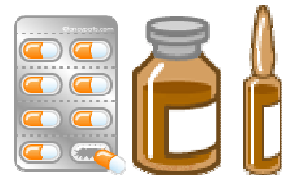


「がん化学療法(以下、「化学療法」)」とは、抗がん剤を用いてがんを治療することを言います。抗がん剤には、がん細胞の増殖を抑えたり、再発や転移を防いだりする効果があります。手術治療や放射線治療が、がんに対する直接的・局所的な治療であるのに対し、化学療法では、より広い範囲に治療の効果が及ぶことが期待できます。

化学療法は転移もしくは転移の可能性がある場合や、広範囲に治療が必要な血液やリンパのがんなどにも使用されます。

抗がん剤単独で治療を行うこともありますし、手術や放射線などの他の治療と組み合わせて行うこともあります。

また、一種類の薬剤だけを使う場合と、いくつかの種類を組み合わせる場合があります。がんの違いによって使用する薬も異なり、薬の種類は飲み薬のものや、点滴や注射のものがあります。



## 化学療法を実施するタイミングと目的

一口に化学療法と言っても、病気の状態や生活スタイルなどによって人それぞれに目的や実施するタイミングが異なってきます。通常、数週間から数か月の間に何回かに分けて薬の投与が行われます。

### ★ 化学療法のみを実施する場合 ★

#### 1. 進行再発がんの治療

がんの進行を遅らせることを期待して化学療法を行います。

#### 2. 血液がんなどの手術を必要としないがんの治療

一般的に完全な治癒を目指して治療が行われますが、薬の副作用を抑えつつ、病気を制御してQOL(生活の質)を維持するために実施されることもあります。

### ★ 放射線と併用する場合 ★

放射線療法でがんを小さくすると同時に転移・再発を予防します。

## ★ 手術と併用する場合 ★

### 1. 手術前の化学療法

- 大きながんを化学療法で小さくして手術で全てを取り除けるようにします。
- 手術で切り取る部分を小さくすることで出血などを少なくし、体への負担を軽減すると同時に乳がんなどでは外観の変化を少なくします。

### 2. 手術後の化学療法

- 手術が成功しても目に見えない小さながんが残っているかもしれないため、それが再発・転移をしないように予防します。
- 手術で取り除くことができなかったがんの増殖を抑えます。



## 抗がん剤(静脈用)の投与経路について

点滴に用いられる抗がん剤の投与経路は以下の2つです。



### <末梢静脈経路>

腕の静脈に細くて短いチューブ(カテーテル)を挿入する経路です。比較的簡単に投与経路を確保できるため、現在一般的に行われている方法ですが、腕の静脈は細くて血液の流れも少ないので、刺激のある抗がん剤を投与する場合には、血管が傷むことにより、血管外漏出などが発生する場合がありますので注意が必要です。



### <中心静脈経路>

ポートと呼ばれる器具を鎖骨の下の皮膚に埋め込み、心臓近くの血管(中心静脈)までカテーテル先端を挿入する経路です。心臓付近の静脈は腕の静脈に比べて太く、また血液の流れも多いので薬剤がすぐに薄まり、刺激性のある抗がん剤でも血管壁への影響が小さい投与方法とされています。



## 外来化学療法について



化学療法と言えば、以前は入院による治療が主流でした。

最近では、新しい抗がん剤や副作用を抑える薬と長期間の投与に適した医療機器を組み合わせることにより、外来や自宅で化学療法を実施することが可能となりました。がんの種類や症状にもよりますが、仕事を続けながら化学療法で治療を行う人が増えています。

(参考) <http://chemo-support.jp/about-chemo/chemotherapy.html>

気になることやご不明な点はお気軽に薬剤師にお問い合わせください。



次回は、2013年3月発行予定です。